

新里山辺公民館 建設工事、着工へ



里山辺公民館 完成予想図

いよいよ里山辺公民館の建設が始まります。旧JA松本ハイルランド里山辺支所の跡地に建設される同施設の延べ床面積はおよそ1100㎡、利用人数に合わせ、異なる広さの会議室や料理実習室が整備されます。地域づくりセンターと福祉ひろばも同施設へ移転し、多世代の住民が集う総合的な地域づくりの拠点になります。多様なサークルや地区関係団体の利用も目的に沿った広さの会議室を選択できるようになり

ます。現状の公民館は各種の活動に十分な広さがあるとは言いがたい。市教育文化センターの一階の4部屋のみで床面積543.2㎡と、地区の人口11926人（令和3年1月現在）の住民の利用には手狭まででした。人口が同規模の他地区ではおよそ2倍の床面積を備えています。



公民館敷地隣接の市道2736号線の改良工事
（3月末終了予定）

校跡地へ移転を遂げました。完成後は多くの住民の皆様が気軽に集い、活動できる施設の完成が待たれます。

このような現状と課題を公民館移転新築要望関係者打合せ会議で整理し、町会連合会の承認を受け、平成28年に松本市へ地元要望を行いました。地域の関係者で構成する公民館建設検討委員会が具体案について検討を重ね、着工を迎えました。

各種災害への備えが課題となる中、公民館は一時避難所としての機能が求められます。湯の原公民館は、建設から37年が経過しており、この2年間は松本市町内公民館整備補助金を活用して、改修や環境整備を実施しました（昨年度は、屋根改修工事と避難階段等塗装工事）。屋根改修は検討を重ね、費用や積雪



さくらやま

2021年3月1日現在

世帯数	5,381戸
男	5,768人
女	6,117人
計	11,885人

わが町紹介

湯の原公民館の活動について

等への耐久性を考慮して「ガルバリウム鋼板によるカバー工法」で実施しました。本年度は、全館照明LED化2階大広間エアコン設置・換気扇交換を実施しました。これにより、町会の各種活動の安全性と快適さが前進しつつあります。今後は、災害時の停電に備えて発電機の設置が必要です。独自の公民館活動として、湯の原文化祭、蕎麦打ち体験学習会、「遺言書の書き方」や「松本山雅の未来」に関する講演会を実施してきました。新型コロナウイルス感染



令和元年度 町会文化祭の様子

が終息し、これらの活動が再開できる日が待望されます。

湯の原公民館長
金井 貞徳

「立志式おめでとう!」

コロナ禍でも目に見えるお祝いを

今回で8回目を迎える山辺地区立志式は新型コロナウイルスの影響で中止しました。

入山辺・里山辺に住む中学2年生を対象に、地域で大人への一歩をお祝いする立志式は、学校だけでは育まれない社会性を身につけてほしいという当時の公民館長の想いで始まりました。なかでも地域で活躍される方から参加者へ向けて将来の励みとなるメッセージを発信してもらうのが好評のサプライズになっています。中止となった今回は、当日渡すはずの資料と記念品の文庫本を参加者に届けるとともに、



嘉納夫妻の
サプライズ演奏

嘉納雅彦さん（チェロ）、妻の尚代さん（ピアノ）の演奏をYouTubeで動画配信しました。心温まる演奏に中学生と地域をつなぐメッセージが詰まっていました。



地域を見つめ直せば いい発見あるさなあ

皆さんは、生まれ育った地域の歴史文化をどのくらい思い出せますか？知ればすぐ話題に使える言い伝えに興味ありませんか？里山辺・入山辺両公民館主催講座「知る知るわかまへ探検隊」はそんな地域の話題探しにうってつけです。

2月27日は「山辺の伝統行事Ⅱ」と題して、各種講*とお船祭り・御柱祭りについて山辺歴史研究会の小岩井俊忠さんにお話を伺いました。江戸時代の山家組（入・里山辺の年貢を納める単位組織）で人々が天災や揉め事を組の住民と力を合わせて乗り越える。そんな共同体の話が講や祭りの文化と深い関わりがあるのを知りました。今は無くなった講が多いですが、皆で集う町会・公民館が現代の講に通じる気がします。

※隣家や同姓など馴染みある人たちが一堂に会し、神仏の信仰や共同生活に関する習慣を同じくする集まり。

現在では共働き男女共生の時代で男性も厨房に入り主婦の留守を守ることが出来るという趣旨の下に「男の料理教室」が出来て令和3年度で20年目を迎えます。この間、参加者をはじめ多くの皆様のご支援・指導に心より感謝申し上げます。



R3.2.16今年度最後の教室の様子
久保田講師(中央)

「男子厨房に入るべからず」とことわざにありますが、女性の主権が薄かったころ、厨房・勝手は主婦の城。主婦は城主とされたと思います。

では各グループごとに料理を自慢しあい、20年という歳月を楽しく過ごせたと思います。これからも調理・栄養等を考えて健康長寿の人生を楽しんで行(生)きたいものです。

講師・調理士 久保田 一

男の料理教室 20年を迎えて



地域の話

157年の刻を越えて

薄町町民の念願でもありました、県宝のお船が157年の刻を経て、漆黒の輝きと、黄金色のかざり金具の姿で戻って参りました。先人が並々ならぬ思いで守り伝えてきてくれたお船を、元の輝きによみがえらせることができましたことに、感無量です。この大事業を任された実行委員会では、「実行委員会だより」の毎月発行、「お船祭り今昔展」の開催、「記念誌」の発行を通して、広く町民の皆様に情報発信をして参りました。そのことで、関心を持っていただき、お船修理の大事業に一体感を持って臨むことができました。

大修理は、県や市より補助金と16年にわたる町民の積立、そして匠の卓越した技により実現することができました。お船祭りでは是非ご覧ください。

実行委員長 小幡 泰俊



修理後のお船
(修理先の高山市で撮影)

集いの場 「林いきいきの会」

新築の香りが鼻に残る林町会公民館では、いきいき百歳体操に元気に打ち込む町民の姿が見られました。参加者は脳トレや唱歌をした後、重りを手足に付けて体を動かします。コロナや公民館新築の影響で今年は開催が中断



松本市公民館活動推進 功労者表彰で3名へ感謝状

(以下ご紹介、敬称略)

- ・川口 一雄 (薄町)
本部体育委員 8年勤続
- ・木下 栄治 (湯の原)
本部体育委員 10年勤続
- ・梶葉 利行 (新井)
館報編集委員 4年、
本部体育委員 4年勤続

新 林公民館完成



林公民館の正面写真

指してきました。9年目に「宝くじ社会貢献広報事業」に当選し、「松本市町内公民館整備補助金」を受けて、令和3年度の町内最終資金積立を残して完成することが出来ました。

新公民館は、国の史跡に指定された林大城小の城下町を生かした建物とし、気軽に集まれるスペースとして土足で直接出入りができる「土間」を設置し、町内のコミュニティの場作りを図りました。また伝統の天井高を踏襲し、3.5mを確保して開放感を継承しました。

林町会長 武田 善徳

まちづくり協議会
Twitterを
ご覧ください!!

